

# 極楽寺だより



2018(平成30)年8月号

発行所：極楽寺（浄土真宗本願寺派） ☎759-3803 山口県長門市三隅下野波瀬 3633 ☎0837-43-0625

## 盆法会のご案内

地球温暖化の影響ででしょうか、夏の暑さが年々厳しくなっています。

外出もはばかられるような厳しさを考え、昨年より下記の通り盆法会の時間を変更することにしました。

特に十五日は、これまでお勤めた「魚法会」と共に、「全戦争犠牲者追悼法要」を兼ねた『いのちを尊ぶ法要』を勤修いたします。

お寺という空間で、仏さまに手を合わせながら、自らを振り返る時間は、生きる上でとても大切な時間です。帰省された方々と共に、どうぞご参拝下さい。

八月十四日(火)

朝九時より

盆法座

八月十五日(水)

朝九時より

いのちを尊ぶ法要

魚法会

全戦争犠牲者追悼法要

十五日の法要終了後、

参拝者の皆さまと共に

平和の鐘を撞きます。

どなたでも、どうぞ。



法要の時間は、お勤めと法話を含めて、約一時間です。

ご予約  
下さい

第55回三隅地区親鸞聖人鑽仰会法座

期日：9月13～14日 会場：上ゲ 徳照寺

講師：天岸浄圓 師 ※お寺で送迎致します。遠慮なくお申し出下さい。

# ご報告

6月3日の総代・世話人会議にて、下記の通り収支決算が承認されました。  
2017（平成29）年度極楽寺門徒会収支決算書

|        | 費目      | 金額(円)  | 摘要   |         |
|--------|---------|--|--|---------|
| 収<br>入 | 門徒会会費   | 904,000  | 延 278 戸×3,000 円<br>(野波瀬延 111/在方延 109/町外延 58) | 741,000 |
|        |         |  | 前納分  | 118,000 |
|        |         |  | 後納分  | 45,000  |
|        | 本山特別懇志  | 0  |  |         |
|        | 貯金利息    | 16   | 8/21 8円 2/19 8円                              |         |
|        | 前年度繰越金  | 1,580,721  |  |         |
|        | 合計      | 2,484,737  |  |         |
| 支<br>出 | 負担金     | 411,480  | 本山賦課金  | 249,080 |
|        |         |  | 山口教区費  | 125,800 |
|        |         |  | 大津東組 組費                                      | 36,600  |
|        | 研修会費    | 21,000   | 組総代会総会(7/28)                                 | 3,000   |
|        |         |  | 教区総代会公開講座(10/26)                             | 2,000   |
|        |         |  | 教区総代一泊研修(1/23)                               | 16,000  |
|        | 火災保険料   | 302,980  | 西部農業共済                                       | 91,200  |
|        |         |  | 本堂 6,700 万円<br>JA 共済                         | 161,680 |
|        |         |  | 庫裏 4,000 万円<br>JF 共済                         | 50,100  |
|        | 会議費     | 60,000   | 5/15 総代・世話人会議                                |         |
| 慶弔費    | 200,000 | 岡村榮一・高野芳雄・黒瀬彰己・安野高男<br>松浪敬弼・名和田良作・角村信忠元世話人<br>宮崎茂之元総代長 | 100,000                                      |         |
|        |         | 新発意入学祝(得度祝)  | 100,000                                      |         |
| 予備費    | 0       | 熊本地震義援金 欄間修理代  |  |         |
|        | 合計      | 995,460  |  |         |
|        | 差引残金    | 1,489,277  | 漁協普通預金                                       |         |

## 2017（平成29）年度極楽寺門徒会 特別会計収支決算書

|        | 費目     | 金額(円)     | 摘要                  |           |
|--------|--------|-----------|---------------------|-----------|
| 収<br>入 | 前年度繰越金 | 2,698,383 | 漁協定期預金              | 2,292,380 |
|        |        |           | 普通預金                | 406,003   |
|        | 利息     | 489       | 定期 486円 普通預金 3円     |           |
|        | 合計     | 2,698,872 |                     |           |
|        | 支出     | 0         | 本山特別懇志進納のため、通常会計へ回金 |           |
|        | 合計     | 2,698,872 | 漁協定期預金              | 2,292,380 |
|        |        |           | 普通預金                | 406,492   |

# 門徒会費の納入をお願いします。

2018(平成 30)年度より、門徒会費は 4,000 円となります。

三隅地区の方は世話人さんへ。他地区の方は、直接お寺へ納入して下さい。

## しんぼち とくど 新発意・得度のお祝い、有難うございました。

門徒会計より、新発意・得度のお祝いをいただきました。

また、清光仏教婦人会よりも、お祝いをいただいております。

今年度中に得度を受式する予定です



## 総代・世話人の交代について

総代の山中重良さん(豊原)・宮崎忠彦さん(野波瀬)が退任され、新しく藤村勇次さん(久原)・吉見周平さん(市)に代わることになりました。

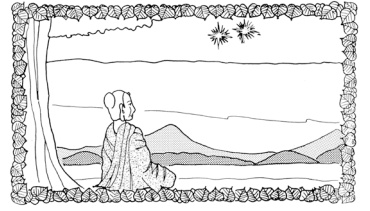
また、久原の世話人は藤村さんの後任に宮本雅志さんが。上東方の世話人が、西村一夫さんから西村正起さんに代わられます。

前任の皆様、長い間有難うございました。新任の皆様、これからどうぞよろしくお願い致します。

### 今年度極楽寺役員の皆さん

|        |             |             |             |
|--------|-------------|-------------|-------------|
| 総代長    | 木村慎治さん(野波瀬) |             |             |
| 副総代長   | 松野行利さん(野波瀬) | 総代          | 藤村勇次さん(久原)  |
| 総代     | 藤田平二さん(仙崎)  | 総代          | 吉見周平さん(市)   |
| 会計     | 磯 昭正さん(沢江)  | 監査          | 野村昭一さん(上東方) |
| 野波瀬西側  | 斉藤達男さん      | 市・湯免        | 吉見周平さん      |
|        | 綿野節男さん      | 土手・中村・大竹    | 田中正幸さん      |
|        | 宮崎忠彦さん      | 久原          | 宮本雅志さん      |
|        | 青海隆司さん      | 向山          | 木村重彦さん      |
|        | 大田宇三郎さん     | 上東方         | 西村正起さん      |
|        | 岩本 勉さん      | 下東方・小島      | 河野光芳さん      |
| 野波瀬東側  | 藤永拓之さん      | 豊原          | 山中博道さん      |
|        | 田村成治朗さん     |             | 重岡幸作さん      |
|        | 石川義文さん      |             | 宮本 智さん      |
|        | 江本富夫さん      |             | 坪野実人さん      |
|        | 岩本国久さん      | 平野          | 山中洋介さん      |
| 辻並・中小野 | 松並唯夫さん      | 浅田・沢江・上ゲ・殿村 | 大田忠男さん      |

- ◆ 元世話人の中谷政雄さん(野波瀬)がご往生されました。長年お世話いただき、本当に有難うございました。



## 極楽寺揭示伝道 けいじてんどう



## 8月の言葉

れたところ。「お帰り」と待っていてくれる人がいて、条件無しに抱きしめてくれる人がいる地。そんな「故郷」が、丸裸の自分を突きつけられる中で、恋しく求められるのではないかと考えさせられました。

作家の柳田邦男さんは、

故郷は心の中に刻まれた「いつか帰るところ」「いつでも帰れるところ」「人生の苦難を一緒に背負ってくれるところ」「心の平安を支えてくれる精神性の大地」という多様な意味が詰まっている。

（ふるさと再考 心に刻んだ地：破壊許さない」毎日新聞2017年11月25日

と指摘されています。「故郷」とは、単に「生まれ育った場所」ということではないのです。この私という存在の原点であり、存在そのものを支えてくださる精神的な大地でもあるのです。

2017年『社会を明るくする運動 作文コンテスト』で、法務大臣賞（最優秀賞）を受賞した柴田嘉那子さん（当時小六）は、

失敗した日、怒られた日、悩みごとが、ある

日、気持ちが落ち込んだ日に、心にしみる



音楽は、リラックス効果やストレスや不安の軽減、コミュニケーション能力を養うなど、様々なはたらきを持っています。その力で、心身の障害改善や生活の質の向上を目指していく「音楽療法」という治療方法があります。ホスピスや老人ホームなどでも、死への不安や苦悩を和らげ、安らぎの時を過ごせるようにと取り入れられています。そこで圧倒的に多くリクエストされる曲が「兎追いしかの山」で始まる『故郷』なのだそうです。

死を前にして、これまで得たもの、自分を成り立たせていたものを手放さざるを得なくなる。身にまもっていた、お金、地位、仕事、健康、趣味というものが、一つひとつ剥ぎ取られていく。

そんな丸裸の人間の事実を突きつけられたとき、思い出されるものがある。一人では何もできない幼き頃、温もりと慈しみの中で育てられた場所。自分の存在が認められ、丸ごと受け止めら

魔法の言葉、それが「お帰り」という言葉だといっています。

嘉那子さんの両親は、家庭環境に恵まれず、虐待を受け、非行に走り、人間不信、大人不信を持つ少年たちを自立支援する施設の寮の運営を担当していました。彼らは入所前まで、「お帰り」と言われたこともなければ、誕生日も祝ってもらったことはありません。とげとげしい心で、反抗的な生活をし、自分自身と向き合うことから逃げる彼らは、「入所した始めのころ、僕もそうだった」と言ってくれる仲間と出会い、一人ではないと気づき、心の深い闇を払っていきました。

嘉那子さんがまだお母さんのお腹にいるころから、誕生を楽しみに待っていた彼ら。生まれてからも、一日一日の成長の変化に気づいては、喜んでくれたといっています。

「母ちゃんは、弟、妹をほったらかしやったから、ぼくがミルクをあげたり、おむつを取りかえた」  
「ぼくも、こうやって育ててほしかった」

と、優しく見つめながらつぶやく彼らの思いに包まれて、嘉那子さんは大きくなっていきました。そして歩き出せた頃から、寮に帰ってくる彼らを「お帰り」とむかえるようになったのです。その一言が、彼らの眼や心を輝かせ、やわらかくしたと言います。↓

そのうち、彼らはそれぞれ社会に出て行くことになりました。そして、連絡してくる回数も、次第に減っていきました。嘉那子さんはこう書いています。

お兄ちゃんたちの「現在」がとて

も心配です。退所したお兄ちゃんたち

みんなに、「おかえり」と言葉をかけてくれるよき理解者がいるのだろうか。安心・安全な居場所を、現在、もっているのだろうか。  
（「大切な魔法の言葉」柴田嘉那子）

やはり、私たちが生きていくには、帰る場所が必要なのです。無条件で受け止められ、「お帰り」と待ってくれる人がいなければ、孤独感、不信感の中で生きなくてはなりません。とげとげしい心で、反抗的な生活をし、自分自身と向き合うことから逃げるしかありません。また私たちには、たとえ社会的な地位を築いても、お金を稼いでも、それらはいずれ手放さざるを得ない現実が待っています。

しかし、待っていてくれる人がいるから、丸裸の私を受け入れてくれる場所があるから、心が安らぎ、苦難にも向き合うこと



ができるのでしよう。だからこそ「お帰り」という言葉が、人の眼や心を輝かせ、やわらかくする魔法の言葉になるのです。

安田理深やすだりじんという先生は、阿弥陀様の国・浄土を「存在の故郷」と言われています。この世のいのち尽きた時、阿弥陀様の本願力ほんがんりきによって生まれさせていただきお浄土の世界。それは、この私を無条件で、丸ごと受け止めてくださる世界です。そして、先に往かれた方が「お帰り」と、待っていてくださる世界でもありません。人間である時は、すれ違い、仲違いなかつががあっても、今度は仏様として出遇い直せる世界です。

弁護士で元大阪市助役の大平光代おおひらみつよさんは、釈徹宗先生しゃくてつしゅうとの共著『歎異抄はじめました』で、

お浄土に往くというのは、自分が帰る場所があるということですよ。現実に帰るのは今すぐでなくても、帰る場所があるというだけで、現世を安心して生きられるのではないでしょう。／養護施設で育った子どもたちに帰る場所をつくる活動をしていた方とお話する機会がありました。帰る場所があるだけで社会に出てもがんばれる。帰る場所がないと根なし草ねなしくさみたいになつて誘惑ゆうわくに負けやすいとおっしゃっておられました。

私たちにとつても心の帰る場所はとても大事で、お浄土があると思えば苦しい現世を生きられるのではないのでしょうか。

と言われていきます。帰っていく世界、お浄土があるからこそ、私たちはこの苦難くなんの人生と向き合い、精一杯せいいつぱい生き切ることができるのだと。

つまりお浄土とは、死後の世界の話ではないのです。「存在の故郷」「いのちの故郷」として、生と死を超えてこの私の人生を支え、輝かがやかせるために、はたらし続けてくださる世界なのです。

私たちには、「いのちの故郷」がある。存在そのものを受け止めてくださる精神的な大地がある。そのことを、人生を通して教えてください。くださった方々の歴史が、今私のところに至り届いたいている。この有り難とうとさ、尊とうとさを、しっかりと  
いただかなくてはなりません。■





## 7月の言葉

幼稚園の園長をしている友人から、こんな話を聞きました。

「一番、質たちの悪いクレーマーって、どんな人だと思いますか？それはね、優秀ゆうしゅうな人なんです。優秀な人が保護者として園にやってくる。すると「ここを修理しゅうりしたら良い」「ここは改善かいぜんすべきだ」と、色んなところに目が行く。確かに、そうだと思います。すべて正しい意見です。ところが、園にも事情じじょうがあるんです。予算がない。人がいない。時間がない。大切だとは思わなくても、なかなかそこまで手が回らない。すると、「園は、一体何をやってるんだ！」と怒りおこ出す。正しいだけに、止まらない。こんな人が、一番困るんです。」

どんなに正しいことであっても、指摘してきされる側にも事情があり、置かれた状況があるのです。それを無視むしされた時、人は ↓

軽い言葉であっても深く傷きずつきます。そんな時に、「何か、事情があるのですか？」と尋ねられ、共感きょうかんされると救われるような思いがしませんか。また相手の事情を聞くことで、こちらが持っている印象いんしょうがガラリと変わり、自分の浅あさはかさに気づかされることもあります。

しかし、「自分が正しい。お前は間違まちがっている」と思っている時は、自分を振り返りません。正しいという思い込みが、止めともなく相手を傷つけていることに、気づくことさえできません。『イソップ寓話ぐうわ』に、「水浴びをする少年」というお話があります。川で水浴びをしていた少年が、深みにはまって溺おぼれてしまいました。少年は大声で叫さけび、通りかかった旅人たびびとに助けを求めます。しかし、旅人は手を差し延のべようとせず、「どうして溺れるようなことをしたのか！」と少年を叱しかりはじめたのです。「お願いだから助けて！そうしたら、どんなに叱しかっても構かまわないから…」

少年の軽はずみを叱しかることは、 ←



正論せいろんです。しかし、いくら溺おぼれている者に正しい言葉を語って  
も、それは無意味です。相手の事情も考えず、正しい言葉で主張  
することの虚むなしさを教えられるお話です。

近頃は、テレビでも、インターネットでも、「正しい言葉」が飛  
び交っています。不祥ふしょうじ事を起こした人を悪者わるものとして、正しい言葉で  
バツサリと斬きり捨てすています。あたかもドラマ『必殺ひっかつしごと仕事人』のよ  
うに。

ドラマであれば、悪い奴をやっつければスカツとして終わしま  
す。しかし現実では、そうはいきません。叩たたかれた側がわには深い傷きずが  
残り、周りの人にも影響えいきょうがあります。私たちが住む田舎いなかのように、  
顔が見える地域では、斬きり捨てすられた人も、その関係者も共に生き  
ていかなければならない住人です。責任せきにんをもって、きちんと後始末あとしまつ  
し、うまく収めてくれるのであれば良いのですが、結局は言いい放ばな  
し、斬きり放ばなしで終わりがち。それで本当の問題解決もんだいかいけつにはなるので  
しょうか。かえって後々のちのちまで引きずり、事態じたいがややこしくなるケー  
スがほとんどです。

問題を解決したいのか、自分がスカツとしたいのか。一体どちら  
なのでしょう。正しい言葉が、状況をより悪化あつかさせるかもしれ  
ない。↓

ない。そんな後ろめたさを持つことは、とても大切なことであるは  
ずです。

ちなみに『必殺仕事人』の登場人物は、「どう理屈りくつをつけようと  
殺しは悪でしかない。自分達はあくまでも裏稼業うらかぎぎょう。だからこそ、敢  
えて金をとっている」という立場を崩くずしません。「正義の味方」で  
はないのだと。だからでしょうか。その後ろめたさや悲しみのよう  
なものが、ドラマに幅はばと深みふかを与えているように思うのです。

心理セラピストの杉田隆史きたかさ

んが、以前働はたらいていた会社に、

とても正義感が強い人がいたそ

うです。その人は、「あの人は仕事しごとがで

い」「私情しじょうをはさんだ人事じんじはおかしい」「あの場所は人が転ころびそうで

危険きけんだから、すぐに直してしてください」と、問題に気がつく

すぐにトップの人にまで話しに行くというのです。

その人の言い分は、すべて正論。いつも正しいことを言っていま  
す。ところが、正しいことを言ってるにもかかわらず、言い分は通  
らないばかりか、状況じょうきょうはかえって悪くなり、トラブルが絶えませ  
ん。とうとうその方は、会社に居いづらくなったのか、辞やめて  
↑





しまいました。杉田さんは、その姿を見ながらこう思ったそうです。「正論は人を動かさない」と。

恐らくその方の人生は、ずっと「私は正しいこと言っているのに、周りがいけないんだ」と憤ることの連続だったのではないかと杉田さんは言われます。しかし、人間はいつも正しくは生きられませんが、間違ひもするし、失敗もする。それぞれに事情も抱えています。一生懸命にやっても、結果に結びつかないことだってあります。何より、勘違ひもあれば、すれ違ひもある。こちらから見れば正しくても、あちらから見れば間違ひていることも。そんな中で、許してもらい、助けてもらいながら、私たちは生きていくのです。

だからこそ、「私がいつも正しいわけではない。私も許してもらっている」という後ろめたさが必要であり、そこに共感も生まれるのではないのでしょうか。杉田さんは、こうも指摘しておられます。「正論は人を動かさない、共感人は人を動かす」のだと。

『正しく悩む技術』杉田隆史

阿弥陀如来という仏様は、智慧と慈悲の仏様だと言われます。仏様の智慧とは、すべてを見通すものですから、誤魔化しのきかない厳しいものだとも言えるでしょう。その光に照らされた時、自らの罪悪深重の生き方、救われ難い凡夫である姿に気づかれるの

だと教えられますのです。

しかし阿弥陀様は、罪深いからと、バツサリ斬り捨てる仏様ではありません。そんな生き方しかできない私たちを、同時に慈悲の心で抱きしめて下さる。溺れ

ている者を、まず救わずにはおれない。それが阿弥陀如来という仏様のはたらきなのです。阿弥陀様の、ぬくもりに満ちた慈悲のはたらきに出遇われた先輩方は、同時に智慧のはたらきから気づかされた後ろめたさを大切にされました。そこから、共感とぬくもりのある人間関係を生み出していかれたのです。その先輩方の後姿が、私を育て、導いてくださっています。

私は元来、正義感が妙に強く、頑迷な人間です。そんな私だからこそ、あえて深い反省と戒めを込めて言わねばなりません。「正しい言葉は、相手を傷つけやすい」のです。■



サッカーワールドカップ日本代表の奮闘に、一喜一憂し、寝不足の日々が続きました。しかし、大会前のバッシングから、活躍後の手のひら返しは、極端すぎましたね。そんな一連の報道を見て、思った「ことがひとつ。結果論で語る人は、無責任で失礼だ」ということ。人生の教訓として胸に刻みます。(任職)

# 平和の鐘を撞きま

しより



## 八月十五日

午前九時よりのお勤め・法話終了後  
午前十時過ぎから、始めます。

八月十五日は、終戦記念日。<sup>むな</sup>虚しく、<sup>かなしく</sup>悲しく、<sup>ざんこく</sup>残酷な戦争は、昔の話ではありません。今でも尚、<sup>なお</sup>世界中で続いています。戦争は、一部の政治家がするものではありません。<sup>かちかん</sup>価値観、<sup>くうき</sup>空気など、<sup>にちじょう</sup>日常生活の積み重ねであり、<sup>えんちようせんじょう</sup>延長線上にあるものなのです。

私たちの先輩方は、<sup>せんぱいがた</sup>魚のいのちを<sup>うば</sup>奪わねば生きていけない<sup>かな</sup>悲しみと<sup>いた</sup>痛みの中で、「<sup>さかなほうえ</sup>魚法会」を勤めてこられました。痛みがあるということは、<sup>うらがえ</sup>尊んでいることの裏返しです。しかし、今や「役に立つか、お金になるか」でしか<sup>あつか</sup>扱われなくなり、ついには人間さえも同様に扱う時代になりました。<sup>とうと</sup>尊<sup>うば</sup>いいのちを奪い、<sup>うら</sup>いただきながら、生かされている。そのことに悲しみや痛みを感じる事がなかつたら、いのちの重さがわからなくなります。それは<sup>まわ</sup>周りのいのちだけではなく、<sup>みづか</sup>自らのいのちをも<sup>かる</sup>軽く<sup>あつか</sup>扱うことになるのです。戦争も、その延長線上にあるのでしょう。

阿弥陀様の光に照らされ、自らを振り返り、いのちの尊さを味わう。その思いと平和への願いを、<sup>ひび</sup>響き渡る<sup>かね</sup>鐘の音に重ね、周りのいのちを尊ぶ生き方の一歩としていく。そんな願いを込めています。どなたでも<sup>つ</sup>撞くことができますので、<sup>きせい</sup>帰省された方々と共に、どうぞお参り下さい。

<sup>の</sup> <sup>ば</sup> <sup>せ</sup> <sup>かね</sup> <sup>おどろ</sup>  
野波瀬の皆さん、突然鐘が鳴っても、驚かないで下さいね。

## お寺からのお願い

お盆には、たくさんの方が納骨堂にお参りされます。参拝はご自由にされて結構ですが、**くれぐれも火の後始末をお願いします。**特に、続けてお参りされる場合、ロウソクの火を「次の人のために」と消さないままにされるところに、落とし穴が！結局つけっ放しで危険なことに。次の方に「ロウソクの火を消して下さいね」と、一言かけてあげていただくと、助かります。

